

獣医学共用試験委員会

1. 獣医学共用試験委員会・小委員会からの進捗状況の報告並びに協議事項

- (1) 共用試験委員会：高井（資料 1-1～6）
 - 共用試験委員会の開催報告（資料 1-1, 2）
 - 資料 1-3. 基盤 A 交付申請書 2014
 - 資料 1-4. 共用試験経費見込み 20140702
 - 資料 1-5. 27 年度予算案
 - 資料 1-6. 獣医学共用試験スケジュール
- (2) 獣医学共用試験機構：杉浦先生、尾崎先生
 - 一般社団法人 獣医系大学間共用試験実施評価機構の設置（資料 2-1～3）
 - 資料 2-1. 機構定款 20140722
 - 資料 2-2. 委任状
 - 資料 2-3. 定款認証に必要な書類
 - 資料 2-4. 共用試験機構：共用試験作業リスト
 - 設置場所について（提案） 緬羊会館 302 号室（東京都文京区湯島 3 丁目 20-9）
家賃 20 万円/月 年間 240 万円 + α
 - 共用試験機構：共用試験作業リスト（資料 2-4）
- (3) vetCBT 小委員会：杉山先生（資料 3-1～3）
 - 資料 3-1. vetCBT 問題精選進捗状況と今後の予定 H26. 7
 - 資料 3-2. 第 2 回 CBT 問題内容検討部会委員
 - 資料 3-3. vetCBT 問題精選システム評価アンケート調査結果
- (4) vetOSCE 準備委員会：北川先生（資料 4-1～5）
 - 資料 4-1. 8 月 19 日 OSCE 委員会議事録案（全国協議会用）
 - 資料 4-2. vetOSCE トライアル準備
 - 資料 4-3. vetOSCE トライアル経費試算
 - 資料 4-4. トライアルに関する意向調査 26 年度
 - 資料 4-5. 標準クライアント派遣契約書 改訂
- (5) トライアル実施委員会：遠藤先生・森田先生（資料 5-1～5）
 - 資料 5-1. ノートパソコンサーバーによる CBT 運用案 2
 - 資料 5-2. CBT サーバー受け入れ・管理票 2
 - 資料 5-3. 日本獣医学会講習会概要
 - 資料 5-4. vetCBT 試験監督マニュアル v. 0. 3. 1
 - 資料 5-5. トライアル OS 無サーバー見積もり
- (6) 広報委員会：澁谷先生（資料 6）
 - 資料 6. 獣医学共用試験 web サイトマップ案
- (7) 財務小委員会 新井先生（資料 7）
 - 寄付金の趣旨書並びに開始のための準備について
 - 資料 7. 共用試験機構募金お願い
- (8) 獣医学共用試験マニュアルの作成（資料 8）
- (9) 全国協議会において決定して頂きたい事項のリスト（資料 9）
- (10) その他

以上

平成 26 年度 第 1 回獣医学共用試験委員会 議事録

1 日 時 平成 26 年 5 月 31 日 (土) 18:00 ~ 21:30

2 場 所 東京大学農学部 農学部 3 号館 105 会議室

3 出席者

酪農学園大学：山下和人教授

酪農学園大学：遠藤大二教授

北海道大学：稲葉 睦教授

北里大学：高井伸二教授

東京大学：尾崎博教授

東京大学：杉浦勝明教授

岐阜大学：北川均教授

岐阜大学：杉山 誠教授

麻布大学：浅井史敏教授

鳥取大学 澁谷 泉教授

日本獣医生命科学大学：新井敏郎教授

日本獣医生命科学大学：森田 達志講師

北里大学客員教授：吉川泰弘先生

岩手大学：山岸則夫教授

北海道大学：伊藤 茂男教授

4. 議題

1) 山岸先生の幹事への追加について：承認

2) 獣医学共用試験委員会小委員会からの進捗状況の報告

(1) 共用試験委員会：高井 科研費交付申請書 (別紙 1-1)

○ 基盤研究 (A) の平成 26 年度実施計画に関する確認 (別紙 1-2: 内訳表)

資料 1-3 1) 成績通知について問い合わせ (麻布大 松井先生から)

麻布大のトライアル受験生から点数が知りたいとの要望があった

個人宛の成績：大学には成績通知しているので、各大学で対応して頂く

大学の平均点、個人の点数

トライアルでは大学によって受験した学年が異なる

医学部はすべて公開、薬学部は可否のみ公開

トライアルのモチベーションを維持するために点数公開が必要

トライアル：獣医では各大学の判断で大学平均点と個人の点数/順位あるいは点数分布等を公開して良い (本試験における対応はこれから)

2) トライアルに関する機材費用について (帯広畜大 松本先生)

共用試験委員会/共用試験機構 (仮) より予算措置があるのか？ 無いと返答。

(2) 獣医学共用試験機構の設置：尾崎先生、杉浦先生

○ 獣医学共用試験機構の規約関連

○ 設置場所：緬羊会館 302 号室 (東京都文京区湯島 3 丁目 20-9)

家賃 20 万円/月 年間 240 万円 + α

○ 専任理事の依頼：理事 2 名 + 事務 1 名 (いずれも非常勤職員として雇用)

機構の予算

共用試験初年度 (平成 28 年度) の予算：各大学から受験学生数を加味した所定の年会費を徴収

寄付金：機構銀行口座で管理するが、それまでは全国協議会事務局で管理

平成 27 年度科研費 A の申請を考える

機構 (一般社団法人) を 2015 年 4 月に立ち上げる

事務所は 2015 年 1 月をめどに仮立ち上げる。そのためには、

イ) 先にお金が必要 (30 万円程度) 家賃 20 万円、公証人に対する謝礼 7 万円、登記料 数万円

ロ) 新井財務小委員会委員長に寄付金調達をお願いした (獣医師会 55 支部、大学同窓会、企業など、幅広く依頼することとした) 5 年間位の期限付きとするか、長期的にお願いするか。

ハ) 寄付金の送付先としては将来的には機構となるが、現時点では公的な組織である、全国協議会 (共用試験委員会・機構設立準備委員会) であり、これについては 9 月全国協議会で決定できるように準備

ニ) 財務小委員会の会計事務担当部署を、全国協議会事務局である日本獣医生命科学大・教務課・中原優課長にお願いする (新井先生了承)。

ホ) 機構の設置時期については、平成 27 年 4 月を目標としたいが、16 大学学長の承認 (捺印) が、9 月の総会以降の短期間で可能か否かの議論があり、法人申請の方法論 (全部

資料 1-1

第 101 回全国協議会 平成 26 年 9 月 8 日

が揃わなくても、出来るところから) について、杉浦先生に依頼している司法書士にご確認頂くこととした。

- へ) 新井委員長が中心となり各種団体からの寄付金を募集し、これで事務所を立ち上げ、また銀行口座を開く
- ト) 平成 27 年 4 月以降の参加であっても、会費は遡って徴収すべきであろう。
- 1) 定款：1 枚の紙に獣医系 16 大学学長が押印する (学部長印ではダメ)
医学・薬学の事例について、情報収集することとした。

(3) vetCBT 小委員会：杉山先生 資料 “vetCBT 問題作成・精選進捗状況と今後の予定”

○問題精選の作業進捗状況

到達目標△が入っており、これは保存しておく

科目委員を 3 名から 2 名に減らした

1 グループ 100 題以下とした

科目間での作成問題数の偏りが見られる

科目内・到達目標項目間での問題数の偏りも予想でき、今後、把握する

アンケート調査結果を解析し、次の作業に向けて改善を進める

○平成 26 年度の問題作成・精選予定

問題の偏りを解消するように問題作成を依頼する

この新たな問題と第 2 回目で精選できなかった問題について精選作業を実施する

○トライアル用試験問題の作成について

実際に出題する問題について検討する委員を新たに任用委員会を設置することとなった (遠藤・杉山・杉浦)：本番用の検証を含める

問題セットを作成する際に重複問題を目視で削除する (精選システムの中ではしない)

(4) 共用試験の検証：杉浦先生 資料 “共用試験 CBT 第 1 回トライアルの IRT 処理結果”

○検証システムなど

識別力 (a)：能力の高い学生が正答率が高い、能力の低い学生が高い、平均値 0

a=1.5 は識別力が高い 識別力が低い (マイナス) となるものは不適問題

難易度 (b)：数値が大きいほど難易度が高い (能力が高い)

CORRELATION BISERIAL：総点数との相関係数

・・・マイナスだと高得点者ほど間違えている

・1 問あたり 50 名必要

・問題が重なっていた方が良い (大学間、大学内)

例えば、300 問：A100 問 B100 問 C100 問 D100 問のセットで 300 問にすると

ABC 50 名、BCD 50 名、CDA 50 名・・・問題が重なっていることが必要

(5) vetOSCE 準備委員会：北川先生、山下先生、山岸先生 資料 “OSCE 2014 年度対応事項”

○vetOSCE の準備状況

事前実習の手引き・・・ほぼ完成、共用試験の HP にアップロード

20140419 vetOSCE トライアルの報告 (新井先生から)

・実施した vetOSCE の内容は日獣大独自のものであった

・模範クライアント 13 名 (1 万円+旅費) 受験生 96 名/8 レーンとして (休憩交代要員含む)

・ブース用パーティションレンタルおよび設営 90 万円

・体育館床養生 10 万円

・犬のシミュレーター @ 3 万円×4 レーン

・実技試験ブースでの用具購入および消耗品 30 万円

・模擬クライアント用ネコぬいぐるみとキャリー 1 万円/セット×8 レーン

・初期投資と会場費を除き日獣大規模で 30-50 万円/回程度 (当日弁当代含む) で実施可能か

・スキルラボ設置の必要性から今年度予算確保予定

・標準クライアント、評価担当者の教育と認定の方法について議論が必要

○平成 26 年年度トライアル計画など

・トライアルの実施計画を各大学から情報収集

・犬シミュレーター：京都科学、電通 子牛シミュレーター：電通、富士平 注射シミュレーター犬：京都科学

資料 1-1

第 101 回全国協議会 平成 26 年 9 月 8 日

- ・ シミュレーターに関しては、北大、帯畜大、山口大、鹿児島大の 4 大学に予算のことに
 に関して相談（伊藤先生から）
- ・ 牛シミュレーター：帯畜大は米国から導入、鹿児島大は麻布大シミュレーターを導入
 スキルラボを考えている
- ・ 模範クライアント・・・機構とアニコムとの契約、認定システム
- ・ 評価項目・・・評価者の研修方法、DVD 作製
- ・ 日獣大プレトリアルで作成した監督要領をベースに各大学で修正版の作成

(6) トリアル実施委員会：遠藤先生、森田先生・高井

○平成 26 年度のトリアル計画（資料 2-1）

- ・ 全国 16 大学に、トリアルに向けての具体的な準備状況について、アンケート調査
 を実施することとした。9 月総会では予定表を発表できるように、7 月末を目処に調
 査をする
- ・ 科目指定してトリアルを実施する・・・履修している学年が受験する
- ・ vetCBT システムの知財（科研費で開発）を機構に移す
- ・ 大阪府立大学では vetCBT の実施環境に Mac を導入・・・調査費は府立大持ち
- ・ 問題目視検査委員の選出
- ・ vetCBT システム練習問題の HP 公開・・・専門性のある問題、幹事会で作成
- ・ 第 157 回日本獣医学会で vetCBT システムの紹介と実演
- ・ 時間あたりの問題数について・・・80 分 100 問×3 ラウンド=300 問とする
- ・ 標準的仕様と推奨購入先を共用試験委員会が指定
- ・ 2013 年度までの開発システムを継続使用する
- ・ 医学・薬学の試験時間設定について、情報収集することとした。
- ・ 薬学の例：基本は 1 問 1 分。2 時間で 100-105 問/1 ブロック。3 ブロックで試験。遅
 刻の限界は開始 30 分迄、1 時間経過したら退出可能。

○第 157 回日本獣医学会（北大）での CBT 担当者会議について

平成 26 年 9 月 12 日（金）北大獣医学部 e-ラーニング室

(7) 広報委員会：澁谷先生

- ・ vetOSCE プレトリアル in 日獣大の HP で紹介
- ・ スпамメールをブロックしている
- ・ 共用試験委員会の会議資料に関して、問題のあると判断されるものは Dr. 澁谷の判断
 で公開していない
- ・ HP 費用：共用試験委員会のもので 30 万円程度、機構も同様の業者で進める
 科研 A で開発費は難しいのでは・・・
- ・ サーバーをどうするか・・・とりあえず umin のまま

(8) 財務小委員会：新井先生・前述（新井委員長に資金調達をお願いし、仮機構事務所立上）

- ・ 会計業務：日獣大 中原さん 全国の事務局

(9) その他問い合わせ：前述（帯畜大、麻布大）

(10) 第 157 回日本獣医学会における司宰機関企画シンポジウムなどについて、伊藤茂男先生
 から準備状況のご説明を頂いた。

追加のお願い（尾崎先生）

(11) 獣医学共用試験マニュアルの作成の依頼

各小委員会が担当される項目について、8 月中旬頃までには、修正・追加をお願いします。

その後、9 月 1 日頃にまでに全委員での校閲、9 月 8 日（？）の全国協議会で配付を目標にし
 たい。同時に、冊子体として全教員に配付できればと考えております。

次回北海道大学での改革委員会会議 9 月 9 日午前 9-12 時 開催予定

平成 26 年度 第 2 回獣医学共用試験委員会 議事録

- 1 日 時 平成 26 年 7 月 19 日 (土) 午後 1 時 30 分～午後 5 時
- 2 場 所 綿羊会館 会議室 (湯島 3 丁目 20-9)
- 3 出席者
- | | |
|-------------------|--------------------|
| 酪農学園大学：山下和人教授 | 酪農学園大学：遠藤大二教授 |
| 北海道大学：稲葉 睦教授 | 北里大学：高井伸二教授 |
| 東京大学：尾崎博教授 | 東京大学：杉浦勝明教授 |
| 岐阜大学：北川均教授 | 岐阜大学：杉山 誠教授 |
| 麻布大学：浅井史敏教授 | 鳥取大学 澁谷 泉教授 |
| 日本獣医生命科学大学：新井敏郎教授 | 日本獣医生命科学大学：森田 達志講師 |
| 岩手大学：山岸則夫教授 | |
4. 議題
- 1) 綿羊会館 3F 事務室 (75 m²) の件
 - ・ 室料月額 25 万円だが、19 万円となる。敷金・礼金は不要。
 - ・ 隣は「全国動物薬品器材協会」、1F は「畜産技術協会」で何かと利便性が高い。
 - ・ 平成 27 年 1 月から「獣医学共用試験機構」の事務所として契約したい。
 - 2) 問題品質管理部会の立ち上げと委員の選出
 - ・ 承認。正式には 9 月の全国協議会だが、部会の活動は直ぐに開始した頂く事とした。
 - ・ これにより MAC でも OK (大阪府立大学のみ) ---高井より案内 (遠藤先生の前案で送付済み)
 - 部会長：遠藤先生 (基礎系委員)
 - 病態系委員 森田先生 (日獣大)
 - 応用系委員 水谷先生 (農工大)
 - 臨床系委員 米澤先生 (東大)
 - 3) 宿題：薬学における NPO 法人の立ち上げの経緯 (資料 2-1)：高井より説明。
 - 4) 機構の立ち上げと予算 (資料 2-2)
 - ・ 尾崎先生が本日配布した資料で説明。
 - ・ 12 月に準備、2015 年 1 月に正式な登記---H26 年度の予算が必要。
 - 1) 2015 年 1 月：事務所の整備。
 - 2) 2015 年 2～3 月：トライアルの立ち会い。
 - ・ 寄付で H26 年度予算を準備。
 - 1) 新井先生より---日獣大 50 万、日獣大同窓会 50 万
日本獣医師会 10 万円、東京都獣医師会 10 万円、
その他企業 5 社程度の合計 170 万円 (200 万円は大丈夫)
 - 2) 高井先生 (案) --寄付について地方獣医師会に一口 5 万円×2 口要請
55 獣医師会×10 万円=550 万円?
 - 3) 収入：H26 年度---寄付金 200 万円
H27 年度---大学会費 945 万円+寄付 200 万円、
H28 年度以降---大学会費 945 万円+α 寄付 200 万円
 - 4) 文具は廃棄物を流用。
 - 5) 予算管理等があるので最終的にスタッフ 2 名が必要---確立するまでは獣医学共用試験委員会で対応。
事務局長---候補者に声かけ、大学退職教員、財団等の理事経験者。
事務委員---尾崎先生の知り合い、別に会計専門の方。
- 以下の項目は、9 月の全国協議会に向けた準備の確認です
- 5) 共用試験スケジュール (資料 2-3)

- ・ 「獣医学共用試験スケジュール表」(本日資料)に追加で埋めていく。
- ・ 予算立てをしっかりと構築する。
- ・ 8月に「受験生向けガイドライン」作成し、9月の日本獣医学会で ver. 1として公表
 - 1) 資料7「vetOSCE 実施要項案 ver 16」
 - 2) 資料4「13227vetCBT 試験監督マニュアル v. 0.3.1.doc」
- ・ 年度設定??? ---北大は6月に獣医学共用試験であり、他大学2-3月と年度が異なる
 - H28年度試験 or H28-29年度試験?
 - 入学年度とする?

6) 共用試験マニュアルの作成：尾崎先生から作成中のマニュアルについて、内容を最新版としたいので、各担当から最新のファイルを送付頂きたいとのお願いがあった。9月の全国協議会に提示したいので、8月中の送付を。

7) CBT トライアルの準備 (遠藤先生)

(1) ノートパソコンサーバーによる C B T 運用案 (資料 2-4-1~4) :

- ・ 2回のvetCBT トライアルでは試験問題設定で大きな問題があった
- ・ 遠藤委員よりノートPCをサーバーとする案について説明があった
 - 1) 実際にPCを宅配便で綿羊会館に配送して説明
 - 2) サーバーPCは6万円/台、予行演習サーバー&本試験用サーバーの二台
 - 3) iPadで試験を実施する場合には、ルーターが必要。
 - 4) サーバーPCやルーター等は各大学で購入して、機構に設置する。
 - 5) サーバーPCやルーター等は企業に現物を寄付してもらう。
- ・ vetCBTに使用する端末は大学別で準備する
- ・ ノートPCサーバーシステムを進める---費用の提示とマニュアルを準備する
- ・ 数パターンの問題セットを使用することは知らせる(具体的なパターン数は秘密)
- ・ リスク管理(浅井先生提案)：最悪を想定して、紙ベースでの試験実施を準備。
 - 検討する。トライアルについても対応。
 - 写真のないセット(コピー用)1セットを封印して準備。
- ・ vetCBT 問題数：100題80分については前回確認。

(2) 9月12日 CBT 担当者講習会 (獣医学研究科 e-ラーニング室：時間9:00 ~ 15:00)

初めてのトライアル校が準備すべき物品リスト

初めてのトライアル校が準備すべき試験環境設定手順書

- ・ 日本獣医学会におけるvetCBT実施担当者講習会---定例化する(秋の日本獣医学会)。
- ・ 9月12日の講習会の案内状を準備し、来週には、全国協議会の各大学代表者に送付し、各大学から1名以上の参加を依頼することとした。
- ・ トライアル監督マニュアル等については、日獣大版をプロトタイプとした基本バージョンを森田先生に作成頂き、各大学で必要な事項を変更して、各大学版を作成することを、講習会において依頼することとした。

8) OSCE トライアルの準備 (北川先生) :

OSCE 小委員会における検討経過の報告 (資料 2-5-1)

- ・ 日本獣医師会年次大会での関連集会の開催は困難---岡山大学等で開催?
- ・ 事前実習の準備---各大学で説明すると必要性を理解してくれている。
 - 東大、山口大、日大、東京農工大で説明会の要請がない---後ろ向き。
- ・ 事前実習の手引き---最終段階。解剖用語と臨床用語。
- ・ シミュレーターの開発状況で試験内容を変更していく。
- ・ vetOSCEに関する手続き(資料10)のたたき台を説明 by 北川先生
 - 1) vetOSCE 試験実施に関する詳細は各大学が責任を持つ---機構は共通作業のみ
 - 2) 試験日程(1日は複数日か・・・)は確定していない。
 - 3) 医療面接、身体検査、縫合、の最低3ブースを実施?
- ・ シミュレーター
 - 1) H28年度ではシミュレーターの使用は無理?あきらめるか?

- 2) 京都科学：犬に関しては完成度が高い。でも 100 万円---8 月に確定する？
 - 3) 富士平：子牛に関しては問題が多い。でも 100 万円。開発断念？
 - 4) 現実的には・・・犬を先行させる？？？
 - ・ 9 月の獣医学会では vetOSCE および vetCBT の基本を示す（「・・・かも」はなし）。
- 標準クライアント派遣契約書案（資料 2-5-2）
- ・ アニコムが派遣契約する相手は---？？？
 - ・ 標準クライアントの費用は各大学負担---各大学とアニコムで派遣契約。
 - ・ 日獣大のトライアルでは、8 レーン 13 名の標準クライアントを準備した。
 - ・ アニコムの支社：札幌、東京、名古屋、博多。
 - ・ 標準クライアントの質保証---認定システム
- OSCE 課題と学習目標の検討・共用試験マニュアルの内容検討
- ・ DVD を作成。
 - ・ 医療面接実習の評価者の養成---費用の問題---トライアルを利用する。
- 初めてのトライアル校が準備すべき物品リスト
- ・ 資料 8-1：北川先生がトライアルの費用を説明
 - 1) 日獣大トライアル：実技試験 4 レーン、医療面接実習 8 レーン
総額 170 万円---消耗品は 7 万円程度
会場設営に 100 万円
 - 2) 岐阜大トライアル：1 レーン 3 ブースで総額 34 万円程度
- vetOSCE トライアル実施についての意向調査（資料 11-3）
- ・ 9 月に実施を案内する。
- (1) OSCE 実施要領案（資料 2-5-3）
 - (2) トライアル予算案（資料 2-5-4~6）
 - (3) シミュレーター案（資料 2-5-7~9）
 - (4) OSCE 実施案（資料 2-5-10）
 - (5) OSCE 担当者会議予定案（資料 2-5-11~13）
 - (6) トライアル準備（案）（資料 2-5-14）
- 9) CBT 小委員会
- ・ 正答率を 80%にした。
 - ・ 精選数 3038 題/4587 問題（採択率 66.2%）
 - ・ 偏りの是正、残りの問題の精選。
 - ・ 100 題の精選に 20 時間程度。
 - ・ システムの操作性は大きく改善---初めての人と経験者との間に差はない。
 - ・ 負担：副責任者、責任者に負担大---問題数が多い。
 - 1) 科目委員 100 題、責任者 200 題程度が適当か？
 - 2) ほとんどの委員がもう一度やっても良いと解答。
 - ・ 問題作成の徹底、コアカリ教科書。
 - ・ 今回の問題精選体制で固定したい---検討部会を終了---安定化---精選委員（任期 2 年）
 - 1) 4 人体制：科目委員-1、科目委員-2、科目副責任者、科目責任者
 - ・ 問題精選の時期---確実に教員が大学にいる時期---年度末？
 - ・ 科目担当者の少ない科目で問題数が少ない---例：行動治療学
- 10) HP 小委員会(資料 2-6)
- ・ 「獣医学共用試験 Web サイトマップ案」---薬学の HP を参考に医学系内容も取り込む
 - ・ vetCBT「公開問題集」の作成提案---「CBT 体験受験」vetCBT の問題ではできない
---体験したい学生、しっかり勉強したい学生にも対応
---30 分間解答した学生さんに正答率を提供。
---vetCBT とは違う問題作成行程で問題作成---委員が作成する
 - ・ HP 作成費用は事務員の IT レベルに左右される
- 11) 財務小委員会

寄付金の趣旨書並びに開始のための準備について

- ・ 寄付金募集のひな形を作成し（新井先生）、9 月に紹介
- 12) 共用試験機構の立ち上げ準備の進捗状況（資料 2-7-1~3）
- ・ 公証人と話し合い：12 月までに設立時の役員と社員（最低 2 名）を決定する。
 - ・ 設立：2014 年 12 月 15 日
 - ・ 設立時社員：北大総長、東大総長、北里大学長、日獣大学長（設立時の 4 大学については、全国協議会会長校（北大）、国公立協議会会長校（東大）、私大協会会長校（日獣大）、共用試験委員長（北里大）という理由）---最終的には 16 大学
 - 1) 最低 2 名（2 校）の社員。
 - 2) 手は挙げてもらうが、間に合う範囲で。
 - 3) 設立後に理事会承認で残りの大学を加える。
 - 4) 9 月に説明。
 - ・ 定款作成代理人：杉浦先生
 - ・ 費用として 5 万円程度
- 注）北里大学学長は 7 月 1 日から小林弘祐に交代。
- 13) 平成 26 年度トライアル日程案（16 大学へのアンケート）：9 月 12 日の担当者会議で依頼
- ・ vetCBT：9 月 12 日の担当者会議で各大学の委員に要請する。
 - ・ vetOSCE：9 月 11 日の担当者会議で各大学の委員に要請する。
 - ・ 全国大学獣医学関係代表者会議でも要請する。

以上

2015年1月の作業

家具の搬入（日猷大）

不足の家具購入（量販店）

電話、インターネット契約

銀行口座開設

振替口座契約（電話、インターネット）

PCの設置

- 電話機・FAXの設置
- 周辺機器の設置（LAN、プリンター）
- コピー機レンタル契約
- 事務用品の収集と整理

- 業務・作業マニュアルの作成
- 業務日誌の用意（記載事項）
- 各大学担当者名簿の作成
- 各委員会メンバー名簿の作成
- 取引業者リストの作成
- 各委員会からの書類の収集と整理（秘匿度の分類）
- 会計簿の準備（医薬品協会から手ほどき）
- 各委員会作業リスト提出の依頼と整理年間計画表の作成

2～3月の作業

- トライアルの立ち会い（関東地区）
- 各大学の資料確保
- 作業マニュアル（事務局用）作成
- サーバー、無線LANなどのITセットを開封、試験ラン（CBT委員会と）
- トライアル試験データの受け取り、データ加工、精選委員会への送付、管理
- 共用試験ガイドの改訂版作成

獣医学共用試験 スケジュール

		委員会 機構（全体）	CBT	OSCE
26 年度	7月	幹事会：全国協議会秋に向けて		
	8		受験生向けガイドラインの作成	受験生向けガイドラインの作成
	9	全国協議会（札幌） 全体像の提示（共用試験ガイド提示：ver1） 特に； ・機構の説明（経費負担、社員手続他） ・CBT、OSCE トライアルの公募 一任、了承を取り付ける	受験生向けガイドライン（案）の提示 今後の具体的スケジュールの提示	受験生向けガイドライン（案）の提示 今後の具体的スケジュールの提示
	10			プレトライアル（岐阜）
	11			
	12	機構登記	第3回問題作成 （不足科目・項目）	
	1	機構事務所開設		
	2		第3回 問題精選	
	3	全国協議会（東京） マニュアル提示：ver2		
27 年度	4	機構運用開始		
	5			
	6			
	7		第4回問題作成	
	8		トライアル（第1回）	トライアル（第1回）
	9	全国協議会（青森） マニュアル提示：ver3 学生用マニュアル：ver1	第4回問題精選	
	10			
	11			
	12		トライアル（第2回）	トライアル（第2回）
	1月			
	2		トライアル（第3回）	トライアル（第3回）
	3	全国協議会（東京） マニュアル提示：ver4		
28	4			

資料1-6

全国協議会 平成26年9月8日

年度				
	5			
	6			
	7		第5回問題作成	
	8		トライアル(第4回)	トライアル(第4回)
	9	全国協議会 マニュアル提示: ver5	第5回問題精選	
	10			
	11			
	12		トライアル(第5回)	トライアル(第5回)
	1月			
	2		28年度本番(第1回)	28年度本番(第1回)
	3	全国協議会(東京) マニュアル提示: ver6		
29年度	4			
	5		29年度本番(第1回) 北大・帯広	29年度本番(第1回) 北大・帯広
	6			
	7		第6回問題作成	
	8		29年度本番(第2回)	29年度本番(第2回)
	9		第6回問題精選	
	10			
	11			
	12			
	1			
	2		29年度本番(第3回)	29年度本番(第3回)
	3	全国協議会(東京)		
30年度	4			
	5			

一般社団法人 獣医系大学間共用試験実施評価機構 定款**第 1 章 総則****第 1 条 (名称)**

この法人は、一般社団法人獣医系大学間共用試験実施評価機構と称する。

第 2 条 (事務所)

この法人は、主たる事務所を東京都文京区湯島3丁目20番9号に置く。

- 2 この法人は、理事会の決議によって、従たる事務所を必要な場所に設置することができる。

第 2 章 目的及び事業**第 3 条 (目的)**

この法人は、我が国における良質な獣医師の育成を図るため、獣医系大学間の共用試験に関する事業を行うとともに獣医系大学等における教育評価の充実に関する事業・啓蒙・普及活動を行い、もって我が国獣医療の向上と福祉の増進に寄与することを目的とする。

第 4 条 (事業)

この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 獣医系の大学等における教育における学生の学習到達度を判定するための共通の評価試験（以下「共用試験」という。）の実施及び評価に関すること。
- (2) 共用試験の問題，課題及び成績等の管理に関すること。
- (3) 共用試験の内容及び方法の改善を図るための組織的な研究及び研修に関すること。
- (4) 獣医系の大学等における教育内容とその評価の発展充実を図るための学術研究活動・研修事業・啓蒙・普及活動等の実施に関すること
- (5) 獣医系の大学等における教育内容とその評価の発展充実を図るための資料収集及び公開・提供等に関すること
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

第 3 章 会員**第 5 条 (会員の構成)**

この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「一般法人法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は団体であつて、獣医系の人材育成及び教育に係る大学等の学部・学科・専攻系等の専門領域又はこの法人がこれに準ずると認める領域に属する者
- (2) 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した個人若しくは団体であつて、主に獣医師育成の教育に関わる高等教育機関その他の団体、又はこの法人の事業を援助する個人若しくは法人

委 任 状

住所：東京都渋谷区初台 2 丁目 25 番地 7-104 号

氏名：杉浦 勝明

私は、上記の下を代理人と定め、下記の権限を委任します。

記

- 1 一般社団法人 獣医系大学間共用試験実施評価機構の定款につき、
公証人に対し、設立時社員が記名押印したことを自認した旨陳述し、
公証人の認証を受ける嘱託手続に関する一切の件
- 2 定款謄本の交付請求及び受領に関する一切の件
- 3 復代理人選任に関する一切の件

以 上

平成 年 月 日

東京都文京区本郷 7 丁目 3 番 1 号

国立大学法人東京大学総長 濱田 純一

代表者印

捨 印

定款認証に必要な書類

1. 定款 3 通
2. 各設立時社員の登記事項証明書、代理人の印鑑証明書・印鑑
3. 委任状
4. 代理人の印鑑証明書又は自動車運転免許証等
5. 定款認証手数料 5 万円
6. 定款の謄本交付手数料 2 5 0 円/枚×枚数

獣医学共用試験機構の仕事

●機構の基本的な事務：

- ✓ 業務日誌
- ✓ 会計帳簿
- ✓ 銀行管理
- ✓ 受験料の徴収（受験生→大学→機構）
- ✓ 会費の徴収（大学ごと）
- ✓ 寄付金の集金（勧誘も含む）
- ✓ 旅費計算と支払い
- ✓ 会計監査への対応
- ✓ メール管理 記録

●IT 機器・システムの管理：

- ✓ コンピュータの管理・テストラン（iPad 系と PC 系の 2 システム）
- ✓ OS、ソフトウェアバージョンアップ、ウイルス対策作業（毎年の微調整も）
- ✓ データのバックアップ（HD、クラウド上の 2 カ所）
- ✓ IT マニュアルの整備・改訂
- ✓ IT 関連情報収集と提供

●書類作成：

- ✓ 年度計画表の作成
- ✓ 各種委員会の業務計画策定の調整（アドバイス）
- ✓ 全国協議会との調整
- ✓ 案内状（各種）（作成と送付）
- ✓ 各大学担当者名簿の作成と更新

- ✓ 大学別スケジュール・日程等の計画表
 - ✓ 各大学試験実施機材のリスト
 - ✓ 試験実施全体マニュアル整備
 - ✓ 試験立ち会いのマニュアル
- 等々

● CBT :

- ✓ 受験生名簿作成（依頼状、集計、PC 入力、動作確認、エラーチェック、大学への確認）
- ✓ 受験票作成、送付
- ✓ 実施要項の確認文書送付
- ✓ CBT の事前チェック（3 回／年）
- ✓ CBT の実施（3 回／年）
- ✓ CBT 問題直前の目視チェック（300 題 x 5 セット x 3 (iPad or PC or Mac))
- ✓ 試験立会人の派遣調整と報告書受領
- ✓ 試験結果の集計と出力
- ✓ 試験結果の解析（大学別、進路希望別など様々な情報との相関）
- ✓ 試験結果の通知（大学と学生個人）
- ✓ 試験後アンケート（大学と学生）とそのフィードバック
- ✓ CBT マニュアル整備（機構が設定する最低条件）
- ✓ 市販参考書のチェック（漏洩問題の削除）

● OSCE :

- ✓ OSCE 試験課題の設定
- ✓ OSCE 試験成績記入表の作成と送付
- ✓ OSCE 試験成績の集計と出力（マークシート方式）
- ✓ OSCE（本試験と追試験のスケジュール調整・実施（3→6 回／年）

- ✓ 外部評価者の派遣調整
- ✓ 標準クライアント雇用に関するアニコムとの契約
- ✓ 標準クライアントの研修
- ✓ 標準クライアントの派遣調整
- ✓ 実技評価者の認定（講習会等の実施）
- ✓ シミュレーターの確保
- ✓ 広報
- ✓ OSCE マニュアル整備
- ✓ 事前実習の整備

● CBT 問題作成と管理：

- ✓ 問題作成の依頼（1 回／年）
- ✓ 問題精査の依頼
- ✓ 蓄積問題の分類の確認、精選問題の偏り調整
- ✓ 問題文の調整、精査（言い回しの統一など、精選委員会でやりきれなかったこと）
- ✓ 問題中の図、写真の調整点検
- ✓ 項目反応理論の実施と活用
- ✓ 問題作成マニュアル整備

● 広報関連：

- ✓ 学生向け情報提供
- ✓ ホームページ管理
- ✓ 広報冊子の作成（1 回／年程度）
- ✓ ニュースレターの発行（6 回／年程度）
- ✓ 報告書（年報）

●研究業務：

- ✓ 試験法改善の調査と研究
- ✓ コアカリテキストと CBT の整合性・検証研究
- ✓ コアカリ改定への対処（コアカリ自体の管理）
- ✓ 問題質向上の為の支援と研究 例えば 図版多用の推進
- ✓ 学生向け参考書 正規版の作成
- ✓ 学生向け OSCE 演習用ビデオ作成と公開
- ✓ 電子図書との連動研究
- ✓ 全問題公開に向けて問題点整理
- ✓ 選択枝のローテーション（検討）
- ✓ 連続問題の研究

vetCBT 問題作成・精選進捗状況と今後の予定

CBT 小委員会 平成 26 年 7 月 19 日

1. 第 1 回問題作成 (平成 24 年度)
2. 第 1 回問題精選 (平成 24~25 年度)
3. 第 2 回問題作成 (H25. 12. 28~H26. 1. 31)
 - ・問題作成マニュアルの改訂 (平成 25 年度版 v2. 6)
 - ・予想正解率 60%→80%
 - ・登録案内 (ID、パスワード) のトラブル
 - ・CBT 範囲外の出題可 (→将来的に必要: 保存しておく)
 - ・出題数 5632 題/登録者数 714 名 (一人平均 8 題)
3. 第 2 回問題精選 (平成 25~26 年度)
 - 第 2 回問題精選作業 (H26. 3. 10~6. 17)
 - ・50 科目 (62 精選グループ G) (資料 1)
 - 2 G (A B): 解剖学、組織学、生理学、生化学、薬理学、実験動物学、毒性学
病理学、微生物学、動物感染症学、寄生虫病学、臨床繁殖学
 - ・精選委員 150 名: 科目正副責任者 37 名、科目委員 2 名/科目 (113 名)
 - ・問題精選マニュアルの整備・改訂 (資料 2)
 - ・4 名審査 (科目委員 2 名・科目副責任者・科目責任者) / 科目
 - ・精選対象 100 題以下/G
 - ・採択 3038 題/4587 問題 (採択率 66. 2%): 12. 2~89. 9% (100%)
4. 今後の課題
 - a. 問題作成
 - ・出題範囲以外の問題も作成を依頼した→出題範囲以外の問題作成を依頼しない
 - ・出題の偏り→偏りの把握 (科目内、科目間): 5 題以上/一般目標を目標
→出題範囲を限定して新たな問題作成依頼 (後期)
 - b. 問題精選
 - ・1 つの科目に精選グループは一つとする
 - ・積み残した問題の精選
→積み残し問題と偏り是正問題の精選作業 (後期)
 - c. 出題候補問題
 - ・第 1 回の精選問題ではなく、第 2 回で精選した問題をトライアルに出題する
CHT 問題としてより相応しい問題: 予想正解率 80%による難問の排除
 - d. アンケート結果の検証
 - ・システムの改善 (マイナー) の必要性
 - ・1 科目 4 名精選体制 OK
 - ・1 委員 200 題まで?
 - e. 後継者の育成
5. 今後の予定 (平成 26 年度)
 - 持続可能な問題作成・精選体制の確立
 - 積み残し問題の精選
 - 出題が少ない科目・一般目標への出題依頼 (第 3 回問題作成)

→ トライアル試験を通じた精選問題の検証

第2回vetCBT問題内容検討部会 (H26.7.17)

分野	部会責任者 (正〇、副△)	所属	科目 責任者	科目 副責任者	科目 番号	科目名	精選 問題数	科目委員1	所属	科目委員2	所属	
導入 5G 3名	○杉山 誠	岐大	伊藤	杉山	1-1	獣医学概論	20	土屋 亮	麻布大	芳賀 猛	東大	
	△伊藤伸彦	北里大	伊藤	武内	1-2	獣医倫理・動物福祉学	11	柿沼美紀	日獣大	岡田利也	大阪府大	
	△武内ゆかり	東大	杉山	伊藤	1-3	獣医事法規	58	吉村史朗	日獣大	堀内雅之	帯畜大	
			武内	杉山	1-11	動物行動学	80	下鶴倫人	北大	横須賀誠	日獣大	
			武内	杉山	4-12	臨床行動学	1	入交眞巳	日獣大	水越美奈	日獣大	
							170					
基礎 毒性 16G 10名	○池田正浩	宮大	尼崎	佐々木基	1-4A	解剖学A	200	九郎丸正道	東京大	保田昌宏	宮崎大	
	△川崎安亮	鹿大	尼崎	中島	1-4B	解剖学B	172	柴田秀史	農工大	松元光春	鹿児島大	
	△中島崇行	府大	中島	佐々木基	1-5A	組織学A		竹花一成	酪農大	斎藤正一郎	岐阜大学	
	△鈴木浩悦	日獣大	佐々木基	中島	1-5B	組織学B	山本欣郎	岩手大	小川和重	大阪府大		
	△木村和弘	北大	尼崎	久和	1-6	発生学	66	山本雅子	麻布大	中牟田信明	岩大	
	△桑原正貴	東大	鈴木	川崎	1-7A	生理学A	200	志水 泰武	岐阜大	翁長 武紀	酪農大	
	△尼崎 肇	日獣大	川崎	鈴木	1-7B	生理学B	200	中村 洋一	大阪府大	渡辺 元	東京農工	
	△佐々木基樹	帯畜大	木村	川崎	1-8A	生化学A		山下 匡	麻布大	寺尾 晶	北大	
	△佐藤晃一	山口大	木村	池田	1-8B	生化学B	200	折野宏一	北里大	叶内宏明	鹿児島大	
	△久和 茂	東大	池田	佐藤	1-9A	薬理学A		堀 正敏	東大	乙黒兼一	北大	
			池田	佐藤	1-9B	薬理学B	31	堀 正敏	東大	白石光也	鹿大	
			桑原	鈴木	1-10	動物遺伝育種学		今川和彦	東大	鈴木勝士	日獣大	
			久和	桑原	1-12A	実験動物学A	136	岡田利也	大阪府大	古市達哉	岩手大	
			久和	桑原	1-12B	実験動物学B	200	角田 茂	東大	佐藤雪子	日大	
		佐藤	木村	3-5A	毒性学A	寺岡宏樹		酪農大	代田眞理子	麻布大		
		佐藤	池田	3-5B	毒性学B	石塚真由美	北大	鎌田 亮	北里大			
							小計	1405				
病態 11G 7名	○片倉 賢	北大	代田	末吉	2-1A	病理学A	200	内田和幸	東大	古林与志安	帯畜大	
	△村瀬敏之	鳥大	代田	末吉	2-1B	病理学B	100	桑村 充	大阪府大	森田剛仁	鳥取大	
	△代田欣二	麻布大	池田	村瀬	2-2	免疫学		岡本まり子	麻布大	小川健司	理化研	
	△池田輝雄	麻布大	村瀬	高瀬	2-3A	微生物学A	200	福士秀人	岐大	度会雅久	山口大	
	△高瀬公三	鹿児島大	村瀬	竹原	2-3B	微生物学B	67	前田 健	山口大	佐藤久聡	北里大	
	△竹原一明	農工大	高瀬	竹原	2-4	家畜疾病学		山口剛士	鳥取大	今井邦俊	帯畜大	
	△末吉益雄	宮崎大	片倉	代田	2-5	魚病学	56	森友忠昭	日大	和田新平	日獣大	
			高瀬	池田	2-6A	動物感染症学A	165	芳賀 猛	東大	田原口智士	麻布大	
			竹原	池田	2-6B	動物感染症学B	193	村上賢二	岩手大	桐沢力雄	酪農大	
			片倉	村瀬	2-7A	寄生虫学A		野中成晃	宮崎大	横山直明	帯畜大	
		片倉	末吉	2-7B	寄生虫学B							
							小計	981				
応用 7G 4名	○丸山総一	日大	樋口	丸山	3-1	動物衛生学	99	末吉益雄	宮崎大	迫田義博	北大	
	△樋口豪紀	酪農大	苅和	丸山	3-2	公衆衛生学総論	35	田村 豊	酪農大	三澤尚明	宮崎大	
	△佐藤 至	岩手大	苅和	佐藤至	3-3	食品衛生学	100	中馬猛久	鹿児島大	三宅眞実	大阪府大	
	△苅和宏明	北大	佐藤至	樋口	3-4	環境衛生学	99	植田富貴子	日獣大	上野俊治	北里大	
			丸山	苅和	3-6	人獣共通感染症学	92	伊藤直人	岐阜大	加藤行男	麻布大	
			丸山	苅和	3-7	疫学	60	林谷秀樹	農工大	藤田浩平	酪農大	
			佐藤至	樋口	3-8	野生動物学	63	鈴木正嗣	岐阜大	羽山伸一	日獣大	
								小計	548			
臨床 A 11G 6名	○稲葉 睦	北大	稲葉	松木	4-1	内科学総論	75	滝口満喜	北大	猪熊 壽	帯畜大	
	△佐藤れえ子	岩大	松木	滝口	4-2	臨床病理学	100	盆子原 誠	日獣大	矢吹 映	鹿児島大	
	△亘 敏広	日大	松木	稲葉	4-3	臨床薬理学	26	竹村直行	日獣大	大野 耕一	東大	
	△滝口満喜	北大	稲葉	笹井	4-4	呼吸循環器病学	95	藤井洋子	麻布大	中村健介	北大	
	△松本直章	東大	亘	佐藤れ	4-5	消化器病学	45	大野耕一	東大	坂井 学	日大	
	△笹井和美	大阪府大	佐藤れ・北川	亘	4-6	泌尿生殖器病学	61	大石明広	帯畜大	星 史雄	北里大	
			佐藤れ・北川	笹井	4-7	内分泌代謝病学	51	左向敏紀	日獣大	西飯直仁	岐阜大	
			亘	稲葉	4-10	血液免疫学	77	久末正晴	麻布大	山崎真大	北大	
			笹井	佐藤れ	4-11	皮膚病学	52	前田貞俊	岐阜大	西藤公司	農工大	
			滝口	亘	4-20	画像診断学	64	藤田道郎	日獣大	中山智宏	日大	
			滝口	笹井	1-13	放射線生物学	99	林 正信	酪農大	久保喜平	大阪府大	
							小計	745				
臨床 B 12G 6名	○山下和人	酪農大	猪熊	菱沼	4-8	臨床栄養学	24	山岸則夫	岩手大	大場恵典	岐阜大	
	△猪熊 壽	帯畜大	岡野	山下	4-9	神経病学	47	上野博史	酪農大	神志那弘明	岐阜大	
	△田中知己	農工大	中市	山下	4-13	外科学総論	36	嶋田照雅	大阪府大	山添和明	岐阜大	
	△岡野昇三	北里大	岡野	中市	4-14	手術学総論	38	奥村正裕	北大	浅野和之	日大	
	△中市統三	山口大	山下	岡野	4-15	麻酔学	63	永延清和	宮崎大	佐野忠士	酪農大	
	△菱沼 貢	鳥取大	山下	中市	4-17	運動器病学	49	左近允 巖	北里大	枝村一弥	日大	
			中市	岡野	4-18	臨床腫瘍学	100	丸尾幸嗣	岐阜大	岡本芳晴	鳥取大	
			岡野	山下	4-19	眼科学	54	前原誠也	酪農大	滝山直昭	日大	
			猪熊	菱沼	4-21	産業動物臨床学	100	山岸則夫	岩手大	大場恵典	岐阜大	
			田中	猪熊	4-22	馬臨床学	27	帆保誠二	鹿児島大	佐々木直樹	帯畜大	
			菱沼	田中	4-23A	臨床繁殖学A	200	永野昌志	北大	村瀬哲磨	岐阜大	
			菱沼	田中	4-23B	臨床繁殖学B	1	音井威重	山口大	玉田尋通	大阪府大	
								小計	738	延べ124名		
62G 36名							合計	4587	(116名)			

部会正副責任者: 37名

科目委員: 116名(部会正副責任者との重複3名)

問題精選部会: 150名

vetCBT 問題精選システム評価アンケート調査結果

平成26年7月19日

vetCBT 小委員会

調査期間：平成26年4月7日（月）～6月18日（水）

調査方法：無記名、Web 回答

調査対象者：vetCBT 問題内容検討部会（科目委員、科目正副責任者）

調査票（別紙）

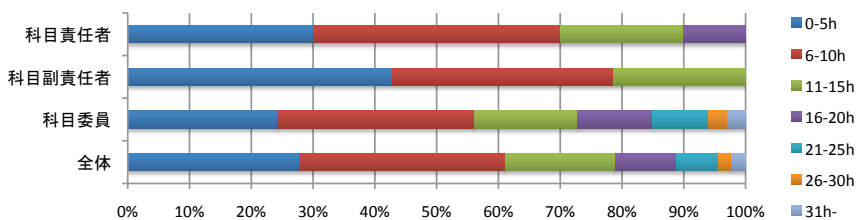
A. 回答者・回答率

	対象者	人数	回答率	基礎毒性分野	導入・行動分野	病態分野	応用分野	臨床分野A	臨床分野B	無回答
科目委員	116	66	56.9	14	8	9	13	7	15	0
科目副責任者	36	14	38.9	4	1	4	1	1.5	2.5	0
科目責任者	36	10	27.8	2	1	4	1	1	1	0
全体	188	90	47.9	20	10	17	15	9.5	18.5	0

B. 100 問あたりに費やした時間を教えてください。

(人数)	0-5h	6-10h	11-15h	16-20h	21-25h	26-30h	31h-*	合計	平均**
全体	25	30	16	9	6	2	2	90	10.2h
科目委員	16	21	11	8	6	2	2	66	10.9h
科目副責任者	6	5	3	0	0	0	0	14	10.8h
科目責任者	3	4	2	1	0	0	0	10	6.3h

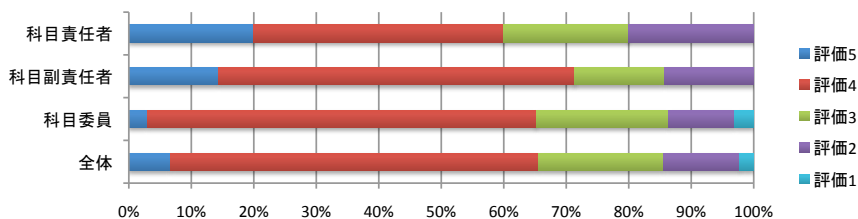
*31時間以上2名：2272時間（応用）、72時間（臨床B） **：31時間以上を除外



C. システムの操作性は良かった（5段階評価）

5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

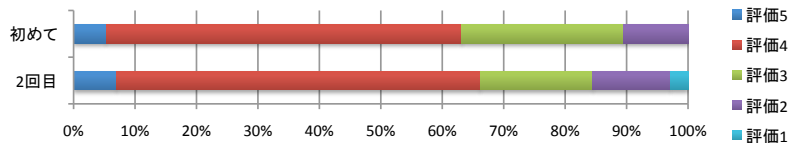
(人数)	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1	合計
全体	6	53	18	11	2	90
科目委員	2	41	14	7	2	66
科目副責任者	2	8	2	2	0	14
科目責任者	2	4	2	2	0	10



続き：C. システムの操作性は良かった（5段階評価）

5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

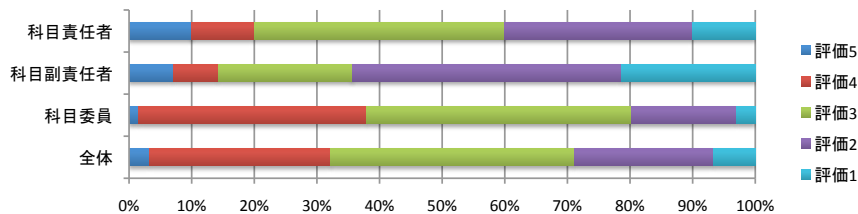
(人数)	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1	合計
2回目	5	42	13	9	2	71
初めて	1	11	5	2	0	19



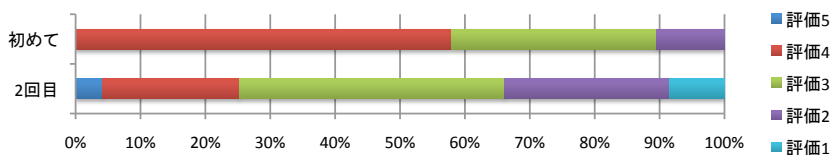
D. 精選作業は大きな負担ではなかった

5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

(人数)	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1	合計
全体	3	26	35	20	6	90
科目委員	1	24	28	11	2	66
科目副責任者	1	1	3	6	3	14
科目責任者	1	1	4	3	1	10

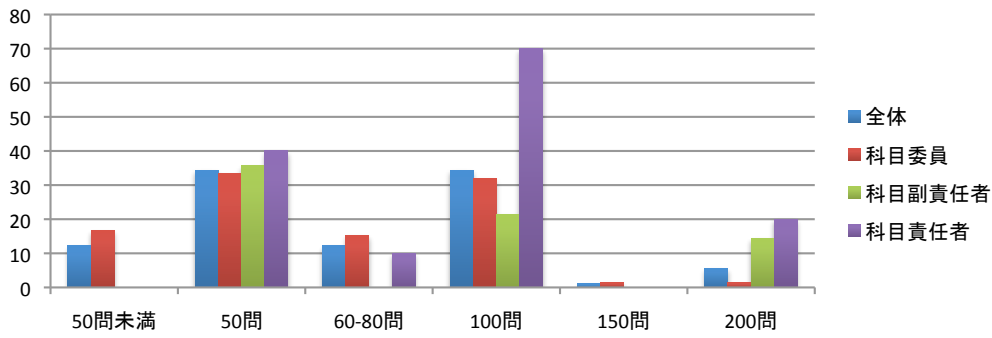


(人数)	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1	合計
2回目	3	15	29	18	6	71
初めて	0	11	6	2	0	19



E. 精選作業にあたり、適正な問題数は何問くらいと考えるか？

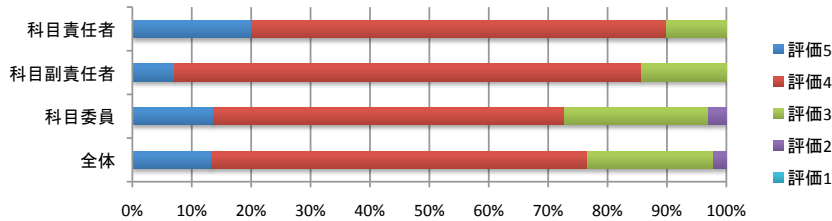
(人数)	50問未満	50問	60-80問	100問	150問	200問	合計	平均
全体	11	31	11	31	1	5	90	77問
科目委員	11	22	10	21	1	1	66	70問
科目副責任者	0	5	0	3	0	2	10	70問
科目責任者	0	4	1	7	0	2	14	138問



F. 適正な問題数であれば、再度委員を引き受けても良い(5段階評価)

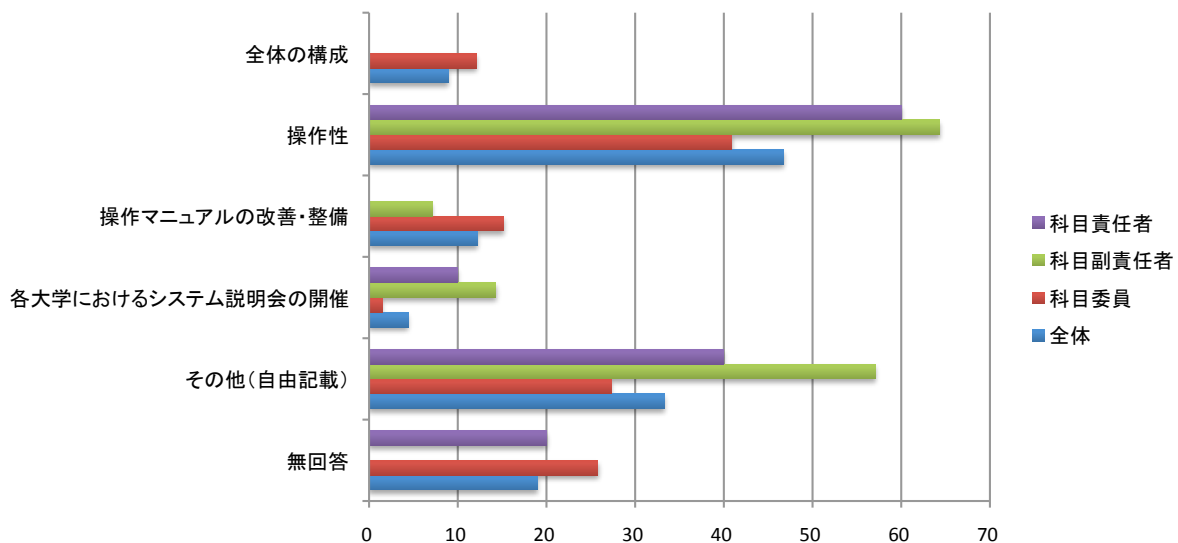
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

(人数)	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1	合計
全体	12	57	19	2	0	90
科目委員	9	39	16	2	0	66
科目副責任者	1	11	2	0	0	14
科目責任者	2	7	1	0	0	10



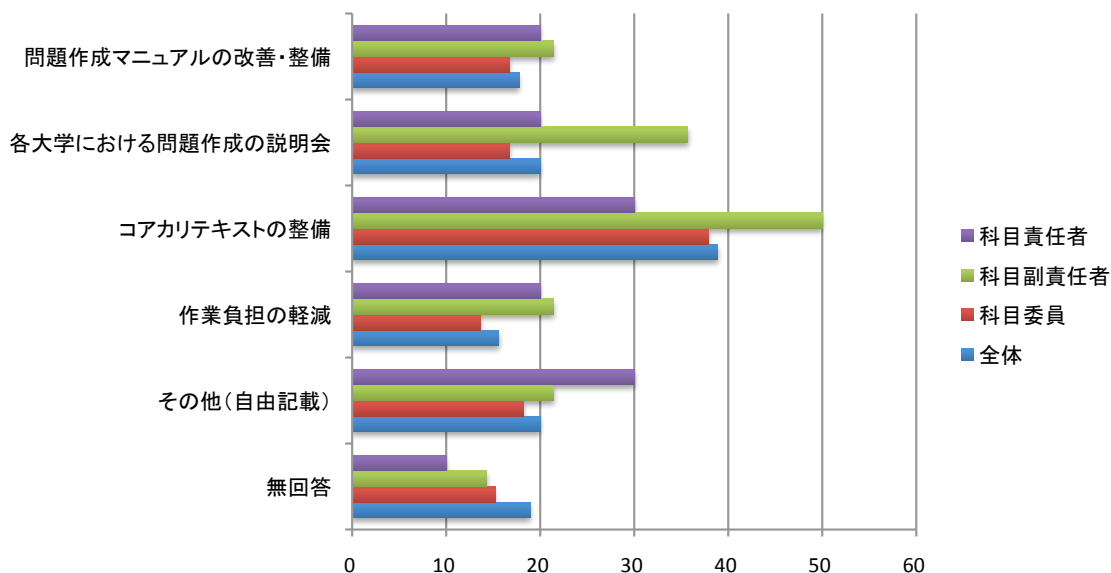
G. システムで改善した方が良くと考えられる点について該当する項目を選んで下さい(複数回答可)

(人数)	全体の構成	操作性	操作マニュアルの改善・整備	各大学におけるシステム説明会の開催	その他(自由記載)	無回答
全体	8	42	11	4	30	19
科目委員	8	27	10	1	18	17
科目副責任者	0	9	1	2	8	0
科目責任者	0	6	0	1	4	2



H. 作業工程で改善した方が良いと考えられる点について該当する項目を選んで下さい（複数回答可）

(人数)	問題作成マニュアルの改善・整備	各大学における問題作成の説明会	コアカリテキストの整備	作業負担の軽減	その他(自由記載)	無回答
全体	16	18	35	14	18	13
科目委員	11	11	25	9	12	10
科目副責任者	3	5	7	3	3	2
科目責任者	2	2	3	2	3	1

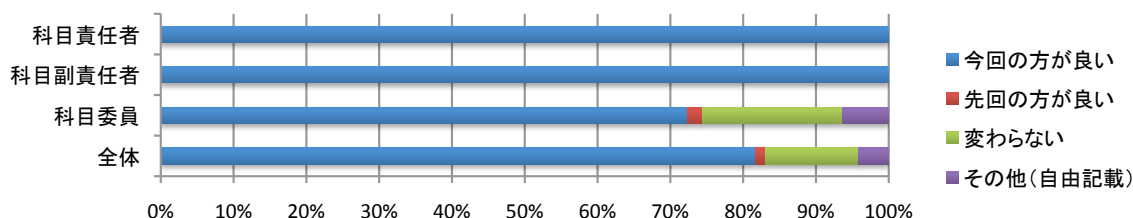


I. 問題精選作業全般で改善した方が良いと考えられる点を教えて下さい（自由記載）

別紙

J. 質問 A-3 で 2 回目と回答された方に伺います。先回と違い、科目委員を 2 名とし、両委員が同時に作業できるようにしました。ご感想をお聞かせ下さい

(人数)	今回の方が良い	先回の方が良い	変わらない	その他(自由記載)	合計
全体	58	1	9	3	71
科目委員	34	1	9	3	47
科目副責任者	14	0	0	0	14
科目責任者	10	0	0	0	10



第 2 回獣医学 OSCE 準備小委員会 議事録

1. 日時：2014 年 8 月 19 日（火）15 時から

2. 場所：東京大学農学部フードサイエンス棟会議室

3. 参加者：鷺巣、堀、森田（日獣大）、山岸、高橋（岩手大）、北川（日大）、藤田（麻布大）、北川（岐阜大）

4. 議題 共用試験幹事会の意見＋必要事項

1) 平成 26 年度 vetOSCE トライアルの実施について

1) 各大学で準備すべき vetOSCE トライアルの什器・消耗品・備品について

大学の施設・設備によって異なるので、各大学での策定が必要

100 名規模の予算（日獣大版）と 30 名程度の予算（岐阜大版）（資料 1）。

麻布大学のトライアル予算の概要を藤田先生が報告した。来週の麻布大学での委員会の後に予算案を北川まで送付することとした。

概要：麻布大学 150 名 5 レーン（15 ステーション）を計画 400 万円程度を試算しているとのこと（全国協議会までには提示できるそうです）

2) 実施時期に関するアンケート調査を実施すること 資料 2

資料 2 のとおり承認された。幹事会に提出済。

3) OSCE の実施日程「vetOSCE については 2 日間以内で実施する」

国公立大学は 1 日で実施する。私立大学は 2 日以内であれば許容する。

ただし、1 日目と 2 日目は実施項目を変えることとする。（1 日目は「医療面接」、2 日目は「実技」、あるいはその逆）

4) 150 人規模で実施できるように、実施内容を再検討する

医療面接、犬身体検査、子牛身体検査は外せない。子牛シミュレーター開発に努力する。不可能な場合は子牛ぬいぐるみ（1 体 7-8 万円）での試験を考慮する

皮膚縫合またはガウン装着：このままで実施する。皮膚縫合とガウンテクニックについては、基本は両方を準備することとするが、大学の選択によって単一項目でも可とする。

5) 犬シミュレーター作成進行状況

資料に沿って堀先生の説明があった。試作品の作成終了。量産タイプの作成に入る。獣医学会の担当者会議の時に展示をする予定。価格は 80-100 万円（未定）とのこと。

6) 子牛シミュレーター作成進行状況

1) 録音可能な電子聴診器を導入することを検討する。山岸先生による電子聴診器の説明。ネコの心音の録音を聴いたが良好である印象。1 台 6 万円弱（共同購入による価格低下をはかる）。これが導入できればシミュレーターの価格低下につながる可能性あり。録音、あるいは既存の音源を使うことが可能かどうか、企業の協力が得られるか等について山岸先生に検討することを依頼した。麻布大の佐藤先生の提案でもあるので、佐藤先生にも協力をお願いすることとした。

2) 子牛ぬいぐるみを用いたシミュレーター開発:

HANZA 子牛ぬいぐるみを基本として、

- 1) 身体各部位を強調した形を作成する
- 2) 肛門と膣の作成
- 3) 体温計 (体温表示のコントロール可能) 作成
- 4) 頭部の製作 (ロープ (頭絡) の装着)
- 5) 心音、呼吸音などの聴診 (これは電子聴診器を考えると音源があれば OK ということになる可能性あり (現在検討中)。)

できるだけ安価なシミュレーターを開発する。

縫いぐるみモデルで問題となるのは頭部への頭絡装着に対する耐久性: 頭部は FRP 製を考える。
頸部のみモデルとぬいぐるみとのハイブリッドを考える。

7) 2018 年 2 月に開催予定の OSCE 担当者会議

獣医師会から開催できない旨の連絡あり

開催の必要性・内容 トライアル実施計画等の確認の必要あり

開催日時: 学会は 2 月 13 日~15 日 候補は 13 日午後

開催方法 岡山大学の教室を借りる (岡山駅からバス 10 分) ことが可能。

2 月 13 日午後を開催することを予定。次回担当者会議 (北大) でお知らせする。

8) 標準クライアント

各地の大学への派遣についてアニコムと合意できた。標準契約書 資料 3

正式に契約するのは、共用試験実施機構または各大学 (支払者)

9) トライアル試行

2014 (H26) 年度

4 月 日獣大 実施済

10 月 岐阜大 医療面接は 3 室予定。面接評価者として日獣大 (2 名) と宮崎大 (1 名)

の先生の参加を予定している

1-2 月 宮崎大

2 月 28 日 麻布大 30 名

2015 (H27) 年度予定

日獣大 4 月 11 日 (土)

麻布大 8 月 1-2 日頃 150 名

日本大 8 月 30 名

vetOSCE トライアル準備 (案)

トライアルは、学生ができるかどうかを問うのではない。

OSCE の手順を、実施する側 (教員と事務) がシミュレーションすることによって、人員配置、時間配分、部屋割りなどを修正するための情報を得ることを目的とする。

1. 準備委員会設置

担当者を決める

2. 実施ステーションを決める

1) 医療面接 必須

2) 犬身体検査 本試験用のシミュレーターは無いが、身体検査+保定用の「ほてい君」が市販されている。適切なサイズのぬいぐるみでも代用できる。

3) 子牛身体検査

犬と同様に本試験用のシミュレーターは開発中。

日獣大と岐阜大では、注射用薬剤調整で実施

子牛縫いぐるみ (HANZA 子牛縫いぐるみ 7 万円弱で市販) も使用可能

4) 皮膚縫合またはガウン装着

日獣大では手袋をして 1 糸縫合で実施

3. 試験室の設定

日獣大、90 名の受験者を想定

医療面接 8 レーン 動物病院診察室を使用

実技試験 3 ステーション 4 レーン 体育館 パーティションで個室を設置した
岐阜大 30 名 すべて動物病院診察室を使用する

医療面接 3 レーン (3 室)

実技試験 3 ステーション 1 レーン (3 室)

○学生待機室、通路、担当者休憩室等

○各大学の態様に応じて試験室を設定する

○学生の流れを想定して試験室を配置する。原則として一方通行

4. 人員配置

全体の管理者、外部評価者、受付、学生待機室管理、学生誘導
評価者、補助評価者、タイムキーパー、補助者 (物品補充など)
標準クライアント

5. 標準クライアント

必要人数の設定 日猷大：13 名 岐阜大学：3 名を予定

トライアルなので「模擬クライアント」でもよい

「標準クライアント」を希望

⇒岐阜大学 北川に連絡をしてください。

経費： 1 名 1 日 10,000 円+旅費（宿泊）

6. 外部評価者

今年度のトライアルでは機構から派遣する外部評価者を使用しない。

岐阜大と日猷大では相互に医療面接評価者の派遣を考えている。

7. 必要資材

日猷大、岐阜大の OSCE トライアル予算参照

平成 26 年 7 月 22 日

大学

獣医学共用試験委員会 委員長 高井伸二
vetOSCE 準備小委員会 北川 均

vetOSCE トライアル実施についての意向調査

共用試験の本試験が平成 28 年度に実施される予定であり、各大学とも準備を進めていることと思います。獣医学共用試験委員会として、OSCE トライアル実施について下記の意向調査を行いますのでご協力をお願いします。

大学・学部研究科名：

責任者氏名：

担当者氏名：

連絡先：

電話：

E-mail:

1. OSCE トライアルを実施する意向がありますか？

平成 26 年度（2015 年 3 月まで）に実施予定 はい いいえ平成 27 年度（2016 年 3 月まで）に実施予定 はい いいえ

2. 平成 26 年度実施について

1) 実施予定時期 年 月 日頃

2) 医療面接 ステーション数 ステーション

3) 外部評価者 必要 不要
必要人数 名4) 標準クライアント 必要 不要
必要人数 名/ステーション × ステーション数 = 名

5) 実技試験 レーン数 レーン

標準クライアント派遣契約書

アニコム損害保険株式会社（以下「甲」という。）と**大学名**（以下「乙」という。）は、以下の標準クライアント派遣契約（以下、「本契約」という）を締結する。

第 1 条（委嘱業務）

乙は甲に OSCE(客観的臨床能力試験)における標準クライアント担当を委嘱し、甲はこの業務（以下、「本件業務」という）について、別紙に定める甲の社員（以下「丙」という）を標準クライアントとして派遣する。

第 2 条（業務時間）

前条に定める業務として、甲は乙が指定する大学で行われる試験に協力する。**1 回あたりの時間は甲と乙との間で協議する。**

第 3 条（費用）

標準クライアントに係る費用は、**1 名について日額 1 万円**とする。乙は毎月末日に締切り、翌月 25 日に第 4 条に定める交通費と合算し、甲の指定する、銀行口座に振り込むものとする。振込日が金融機関休業日にあたる場合は、翌営業日に振り込むものとする。

第 4 条（交通費）

標準クライアントに係る丙の**交通費および宿泊費**は、**乙が規則にしたがって負担する。**

第 5 条（秘密保持）

甲又は乙は、本契約に係る業務の遂行に際して相互に知り得た個人情報等については、法律の定めに従い取り扱うものとするものとする。また、甲は、丙についても甲と同等の秘密保持義務を課すこととする。

第 6 条（契約の解除）

甲又は乙は、相手方が以下の各号の一つに該当する事実があった場合には本契約を解除することができる。

1. 自ら又は自らの代表者、実質的な経営者が反社会的勢力である場合、又は、反社会的勢力への資金提供を行う等、密接な交際を行っていることが発覚した場合
2. 本契約に違反した場合

第 7 条（契約期間）

本契約は、契約締結日から平成 **XX** 年 3 月 31 日までとする。

第 8 条（協議）

甲及び乙はこの契約に定めのない事項又はこの契約について疑義が生じた事項については、双方協議の上定めるものとする。

上記の契約を確認するため、ここに契約書 2 通を作成し、記名捺印の上各 1 通を保管する。

平成 **YY** 年 **ZZ** 月 日

(甲) 東京都新宿区下落合 1-5-22 アリミノビル 2F
アニコム損害保険株式会社
代表取締役 **小 森 伸 昭**

(乙)

ノートパソコンサーバーによる CBT 運用案

2014 年 7 月 13 日(日)

酪農学園大学 遠藤大二

1 背景

(ア) 2013 年度トライアルおよび 2014 年度準備期間の反省点

- ① 問題ストック整備上の準備不足
- ② 共用試験機構での試験ファイル準備上の問題 ⇒ 問題ストックから試験実施時に学外評価委員が持参するファイル準備時に本番用ファイルの区別が難しく、取違いが起きる危険性がある。試験校サーバーでの確認が難しいため、取違防止が困難。受験校サーバーへの取り込みデータの不整合の発生可能性がある比率で起きる危険性。
- ③ 試験校サーバーでの試験ファイル取り込みの問題 ⇒ 2013 年度方式では、学外評価委員が試験センターで作成された試験ファイル(試験問題、受験校情報、受験者および座席表を連結して暗号化したデータ)を学外評価者が持参し、試験校で試験システムに取り込むことになっていたが、試験校サーバーへの取り込み処理が複雑になり、取り込みの問題が生じる危険性が高い。また、要素が多く関係するため、問題が生じた際に究明して問題を回避・復旧するまでに時間がかかる。試験前日に、専門家の居ない状況で試験サーバーに試験データを取り込む 2013 年度方式はこの点でリスクを抱えている。
- ④ 試験校サーバーの処理能力の不足 ⇒ 2013 年度においてはソフトの仕様が OS 32bit で作成されていたため、パソコン本体の能力が活かせず、処理能力が低かった。麻布大学で行われたトライアルの予行では、サーバーが数分間レスポンスできない問題が発生した。
- ⑤ 無線 LAN アクセスポイントおよび端末接続関係サーバーの設定上の問題 ⇒ アクセスポイントと iPad の接続において IP アドレスの発生時に問題が生じた。

(イ) 機器・ソフト等の技術上の問題点

- ① 試験システムを実施するためのソフトの仕様変更 ⇒ オープンソースソフトを利用しているため、OS, Web Server, アプリケーションがアップデートしていく状況にある程度対応していく必要がある。
- ② 無線 LAN アクセスポイントの価格・仕様 ⇒ 無線 LAN アクセスポイントが高価であるのに対し、試験問題実施の際に接続上の問題を生じない実績がある機種を指定できていない。

2 2014 年度トライアルに向けた状況と対策の検討

(ア) 想定状況

- ① CBT システム担当者および開発会社担当者が試験校現場に不在 ⇒ 試験前日および当日にシステム上の問題が起きた場合致命的。麻布大学からは危惧が表明されている。
- ② 国公立大学では人数が限定的
- ③ 受験校の増大

(イ) 2014 年度における CBT トライアル体制の準備

- ① 2013 年度末に CBT アプリケーションを 64bit 化およびシステムを更新
- ② CBT トライアルの試行
- ③ パソコンの輸送方法の検討 ⇒ パソコン宅急便の確認
- ④ 輸送に適切な CBT 用サーバーの選定 ⇒ ノートパソコンでの CBT アプリケーションの試行を実施
- ⑤ ノートパソコンをサーバーにした運用方法を検討 ⇒ 酪農学園大学において 60 人の学生の同時アクセス試験を実施(獣医保健看護学類の協力)

(イ) ノートパソコン性能: Unitcom 社製、Core i7 1.7GHz, Mem=4GB, HDD=500GB

(ロ) CPU 状況: 試験開始時 全問題メニュー画面の同時表示時に CPU 100%により 2 秒の遅延 それ以外の工程では完全に遅延ゼロであった。メモリーはいずれの工程でも 1.5GB 程度の消費で安定



- ⑥ 問題漏えいを防止するためのセキュリティー維持方法を検討 (IT を多用した方式はトラブル発生の原因となることから、非 IT 的な方法を検討) ⇒ 封印用印鑑またはスタンプ方式を検討

3 2014 年度トライアル方式の基本構成

(ア) 概要

- ① サーバー ノートパソコン機構がすべて管理 受験校ごとに予行用と本番用の二台を準備
- ② 試験システム準備方法 共用試験機構で機構サーバーから試験校サーバーに問題を移動し、試験開始直前の状態で送付
- ③ 試験送付、受領時のセキュリティー 基本的に非 IT 的な方法によりパソコンからの情報漏えいを防止
- ④ 安全で安定したサーバーの送付 ⇒ パソコン宅急便を利用

(イ) 試験問題ストックの準備

- ① SOB あたり 1 問題に限定
- ② 問題品質管理委員会が表示を確認する
- ③ 問題のストックは CBT 受験年度ごと(1 月～8 月)に共用試験機構で管理

(ウ) サーバー共用試験機構での管理と試験校への送付

- ① 同時受験試験校を調査し、必要台数を決定
- ② ノートパソコンは常時は試験問題を消去して保管
- ③ 受験校から受験者リストおよび座席表を送付 場合によっては、試験管理方法に関する文書を提出

4 2014 年度トライアル実施計画

(ア) 試験本部の民間委託

- ① 現状で機構が開始されていない
- ② 安定したサーバー保管体制のため
- ③ 2014 年度委託業者: 精選サーバーを委託している バージョン 2 社

(イ) トライアル用問題ストックの選抜および品質管理

- ① 精選済み問題の一部について、問題品質管理部会が実際に目視で確認し、出題問題のストックを作成

精選済み問題の一部を格納し目視確認

確認時に精選サーバーにアクセス⇒精選済み状況を確認

- ② 確認済み問題については精選問題のストックデータベースに保管

(ウ) トライアル実施日程と学外評価委員派遣体制の策定

- ① 全国 16 校にアンケートを実施し実施日程を計画
- ② 可能な限り、日程の早い大学のトライアルにはその次の日程の担当者が参加し、実施状況を確認する

(エ) トライアル校から資料を試験本部への基本情報送付

- ① トライアルおよび予行演習日程
- ② 受験生名簿
- ③ 受験室の座席表
- ④ CBT サーバーおよび予備試験データ USB メモリーの保管場所に関する情報

(イ) 施錠可能であること

(ロ) 管理担当者

(オ) CBT 試験問題準備本部でのサーバーの準備

- ① 国公立大学: ノートパソコンサーバーを試験校ごとに 2 台準備。私立大学: トライアルおよび予備の 2 台を整備することについては国立大学と同様。サーバーの仕様については、稼働試験後決定する。

(イ) リハーサル用 ⇒ ダミー問題をインストール稼働状態で送付する

(ロ) 本番用 ⇒ トライアル用問題をインストール・稼働状態で送付する

- ② 送付日程まで試験本部で管理

(カ) 試験本部からのサーバーの送付

- ① サーバーを紙テープで封印
- ② 封印保証用には QR コードスタンプ



③ PC 専用宅急便で送付



▲ パソコン宅急便BOX A



▲ パソコン宅急便BOX B ~ E

(キ) トライアル実施校における予行演習の実施

- ① 予行演習用パソコンの受け入れ ⇒ 試験 1-2 週間前
 - (イ)受け入れ時の封印を「CBT サーバー受け入れ・管理票」に貼付
ハサミで切断後、割り印されている QR コード部分を貼付
 - (ロ)複数名が開封に立会いサインする
- ② 予行演習用サーバーと受験機器を準備
 - (イ)iPad については Configurator 設定
 - (ロ)PC については漏えい防止対策を実施
- ③ 学生が集合し、ダミー問題を回答。試験監督役の教員は予行演習を実施
- ④ 実施結果については試験本部に報告する

(ク) トライアル実施校における実施サーバーおよび予備試験データの受け入れと開封

- ① トライアル試験の 2 日前にトライアル用サーバー到着
 - (イ)日付指定便
 - (ロ)受け取担当者が「CBT サーバー受け入れ・管理票」にサインする
 - (ハ)サーバーは施錠した部屋または保管庫等に保存する
- ② サーバー異常時に備えた試験データが入った USB メモリーを書留郵便として受け取る。試験時まで保管
 - (イ)受け取担当者が「試験データ USB 受け入れ票」にサインする

- (ロ) 試験終了時まで、施錠した部屋または保管用引き出し等に保存する
- ③ トライアル試験前日に、学外評価員立会いの下で開封する
- (イ) 受け入れ時の封印を「CBT サーバー受け入れ・管理票」に貼付
- (ロ) 複数名が開封に立会い「CBT サーバー受け入れ・管理票」にサインする
- (ハ) 外部評価者は 2 台の出題サーバーを各々受験システムに接続し、受験システムの動作確認
- (ニ) トライアル用出題サーバーを受験システムに接続した状態でシャットダウン
予行演習用サーバーも同時にシャットダウン
- (ケ) トライアル実施校における実施サーバー稼働およびネットワーク環境の確認
- ① 外部評価者が本番および予行演習用出題サーバー 2 台の起動を確認（各々パスワード入力）
- (イ) トライアル用出題サーバーはトライアル実施可能であることを確認する
- (ロ) 予行演習用サーバーはトライアル用出題サーバーに問題が生じた場合の対応のために確認
- ② サーバーを試験実施用の LAN 環境に接続し、接続状態を確認する
- (イ) トライアル用出題サーバーに割り振られる IP アドレスを確認
- (ロ) サブネットマスクおよびゲートウェイの設定を確認
- (ハ) 受験端末から、サーバー画面が表示されることを確認
- (コ) トライアル実施校におけるトライアルの実施
- ① 監督マニュアルに沿って実施
- ② 試験実施記録を作成
- (サ) トライアル実施校からの試験サーバーの返送
- ① 試験実施プログラムの機能に基づき回答データを作成
- ② 回答データを USB 等の媒体に出力 ⇒ 簡易書留便で試験本部に郵送
- ③ 本体を封印し、所定のスタンプで封印
- ④ 試験本部に返送する
- (シ) CBT 試験問題準備本部での採点
- (ス) CBT 試験問題準備本部からの採点結果の送付
- (セ) 非常時の対応

- ① トライアル実施日における停電・災害等
(イ)中止または延期について、各校で決定
- ② 予行演習用サーバーが予定通り稼働しない場合
(イ)予行演習を延期または中止し、予備サーバーの送付を試験本部に依頼
(ロ)試験本部は予行演習用問題を搭載した予備サーバーを送付する
- ③ トライアル用出題サーバーが予定通り稼働しない場合(試験前日・学外評価者立会いの確認時または試験当日、状況判明時)
(イ)予行演習用サーバーでトライアルを実施することを決定する
(ロ)書留便で到着し保存中の試験データ(試験データ、学生リストおよび座席表を含む)を開封し、「CBT サーバー受け入れ・管理票」に記入
(ハ)予行演習用サーバーに試験問題データを導入
(ニ)予行演習用サーバーでトライアルを実施
当日トライアル用出題サーバーの非稼働と予備演習用サーバーの使用を確定した場合、必要に応じて試験時刻を変更する

CBT サーバー受け入れ・管理票 -1

予行演習サーバー受領から予行演習までの記録

1. 梱包受領

(ア) 受領記録

日付 _____

(イ) 箱の開封

① 箱の包装に開封の跡が無いこと 日付 _____

(ウ) パソコンの封印

① 封印テープの断裂が無いこと

② 封印スタンプの貼付

--	--

③ 開封者署名

2. 電源確認

日付 _____

(ア) 電源ケーブルの接続 (イ) サーバーの電源 On

3. ネットワーク接続・IP 確認

日付 _____

(ア) ネットワークケーブルの接続

(イ) IP アドレスの確認(サブネットマスクおよびゲートウェイの設定を含む)

--

4. 予行演習実施

日付 _____

(ア) ブロック開始 (イ) 端末からの画面確認 (ウ) 端末からの回答の管理画面への反映 (エ) ブロックの終了 (オ) 試験の終了 (カ) 回答データの作成

CBT サーバー受け入れ・管理票 -2

サーバー非稼働時の予備試験データ受領・保管記録

1. 書留受領

(ア) 受領記録 日付 _____

受領者 _____

(イ) USB の保管

① 保管場所 _____

2. 使用の確認 (サーバー正常稼働時は不要)

① 開封者署名

_____ 日付 _____

3. データの予行演習用サーバーへの導入 日付 _____

4. 再封印記録(サーバー正常稼働時は不要) 日付 _____

5. 返送記録 日付 _____

担当者署名 _____

トライアル用出題サーバー受領から予行演習までの記録

1. 梱包受領

(ア) 受領記録

日付 _____

(イ) 箱の開封

① 箱の包装に開封の跡が無いこと 日付 _____

(ウ) パソコンの封印

① 封印テープの断裂が無いこと

② 封印スタンプの貼付

--	--

③ 開封者署名

2. 電源確認

日付 _____

(ア) 電源ケーブルの接続 (イ) サーバーの電源 On

3. ネットワーク接続・IP 確認

日付 _____

(ア) ネットワークケーブルの接続

(イ) IP アドレスの確認(サブネットマスクおよびゲートウェイの設定を含む)

--

4. トライアル試験実施

日付 _____

(ア) ブロック開始 (イ) 端末からの画面確認 (ウ) 端末からの回答の管理画面への反映 (エ) ブロックの終了 (オ) 試験の終了 (カ) 回答データの作成

日本獣医学会における CBT 実施担当者講習会案

2014 年 7 月 13 日(日)

酪農学園大学 遠藤大二

基本構成

- 1 2014 年度トライアル実施計画 に準じた CBT 担当者の作業を実習する
- 2 実習を踏まえ、今後の運用について意見を交換する

1 CBT 担当者の作業の実習

(ア) トライアル校からの基本資料の書式に関する確認

- ① 受験生名簿
- ② 受験室の座席表
- ③ インターネット経由で試験データを受け入れる場合の受信用端末

(イ) トライアルサーバーに稼働上の問題が生じた場合、予行演習用サーバーで試験を実施するためのデータ(試験データ)を受信するためのインターネットに接続可能なパソコンを届け出る

(ウ) 各校用に準備されるサーバーの説明

- ① ノートパソコンサーバーを試験校ごとに 2 台準備
 1. リハーサル用 ⇒ ダミー問題をインストール稼働状態で送付する
 2. 本番用 ⇒ トライアル用問題をインストール・稼働状態で送付する
- ② 試験本部での問題搭載作業の紹介(具体的資料は配布しない)
 1. 試験問題の作成
 2. 実施校の学生リストおよび座席表の取り込み
 3. 試験データの作成と開始コードの設定
 4. トライアルサーバーへのデータの導入

(エ) 試験本部からのサーバーの送付の紹介

- ① サーバーを紙テープで封印
- ② 封印保証用に QR コードスタンプで割り印

(オ) PC 専用宅急便でのサーバー受け入れ時の作業実習(「CBT サーバー受け入れ・管理票」に記入・貼付しつつ実習を進める)

- ① 受け入れ時の割り印をハサミで切り「CBT サーバー受け入れ・管理票」に貼付
- ② 開封の立会い者がサインする

(カ) トライアル用受験機器の準備

- ① iPad についての Configurator 設定およびアクセスポイントの設置
 1. Configurator 設定を実演 設定マニュアルを参照して各校での実施を可

能にする様実習する

2. アクセスポイントとサーバーの接続

- ② PC については漏えい防止対策の事例を紹介（各校ごとに対応が異なる可能性が高いため、全体実習は行わない）

(キ) 試験実施演習 各校担当者がサーバー上で作業を演習する

- ① サーバーの起動 試験管理画面の表示（実際にはサーバーではなく管理用端末で実施することを説明する）
- ② 管理画面での開始コードの入力
- ③ 管理画面でのブロックの開始
- ④ 学生の回答の実演
 - 1. 受験番号の入力
 - 2. 問題の回答
 - 3. 管理画面での表示の確認
- ⑤ 管理画面でのブロックの終了
- ⑥ 管理画面での最終ブロックの終了
- ⑦ 管理画面での回答ファイルの出力 USB メモリーへの書き込み
- ⑧ 試験監督記録への記入

(ク) トライアル実施校からの試験サーバーの返送

- ① 本体を封印し、所定のスタンプで割り印
- ② サーバーの梱包・試験本部への返送 実習

(ケ) トライアルサーバーが予定通り稼働しない場合の対応に関する実習

- ① インターネット経由での試験データの受け入れ
 - 1. 受信用端末で試験データ(試験データ、学生リストおよび座席表を含む)を受信
- ② 実習用サーバーに試験問題データを導入
- ③ 実習用サーバーへの開始コードの入力

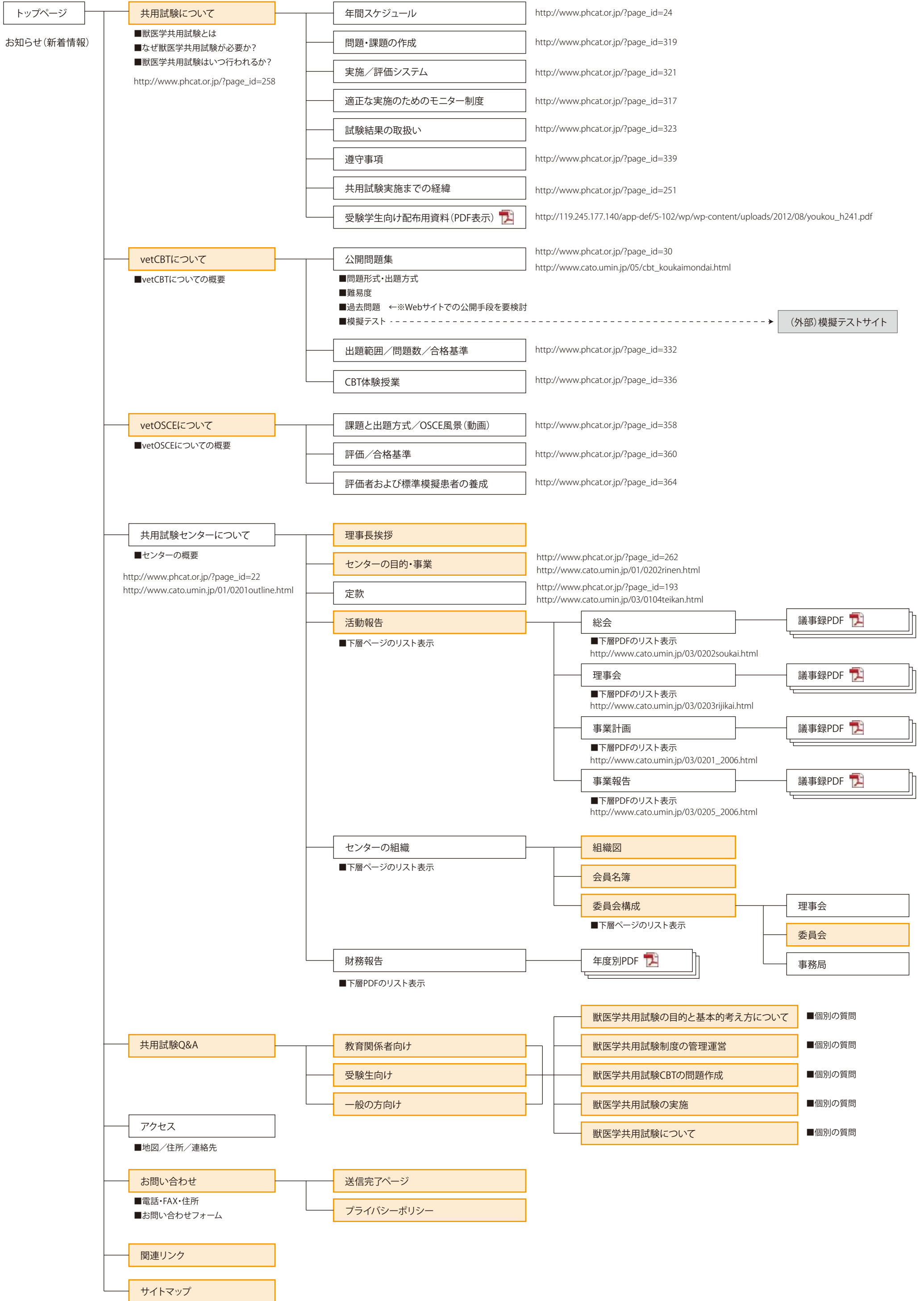
2 実習を踏まえた意見交換

(ア) 各校の受験方式の提示と準備状況

(イ) 現状の試験方式に対する意見交換

(ウ) 各校の受験準備状況の情報交換を行うための方法についての議論

現在の獣医学共用試験サイトにあるページ



平成 26 年 8 月 吉日

獣医療関係者 各位

共用試験委員会・財務小委員会 委員長 新井 敏郎
共用試験委員会 委員長 高井 伸二
一般社団法人 獣医系大学間共用試験実施評価機構
(平成 27 年 1 月設立予定)

獣医系大学間共用試験実施機構設立事業 募金趣旨書 (案)

-機構設立に伴うご寄付のお願い-

拝啓 皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃は、獣医学教育に多大なるご支援・ご高配を賜り、誠にありがとうございます。

さて、全国の獣医系 16 大学は、我が国の獣医学発展のため獣医学教育の充実・改善の取り組みとして平成 25 年度入学生から新しいカリキュラム（獣医学モデル・コア・カリキュラム）により獣医学教育をスタートいたしました。社会の養成に 대응する実践的な獣医師養成のためには臨床・公衆衛生・衛生分野の「参加型実習」の実施が必要となり、参加型実習を行う学生の質の確保と保証の為に 28 年度以降「獣医学共用試験」を実施します。この共用試験の円滑な実施、客観的な評価のために「一般社団法人獣医系大学間共用試験実施評価機構」を設立することになりました。

この法人は「我が国における良質な獣医師の育成を図るため、獣医系大学間の共用試験に関する事業を行うとともに獣医系大学等における教育評価の充実に関する事業・啓蒙・普及活動を行い、もって我が国獣医療の向上と福祉の増進に寄与すること」を目的として設立されます。正式な発足は平成 27 年 1 月を予定しており、学生からの受験料、正会員（獣医系大学）からの会費で運営することになっております。これまで共用試験の CBT 問題作成・問題精選・出題・採点システム並びに OSCE 等の開発には、文科省・科研費基盤研究 (A) と獣医系大学関係者の努力でトライアル実施まで漕ぎ着くことができました。しかしながら、既に共用試験を実施している医学・歯学・薬学とは圧倒的に学生数が異なることなど（1/10 以下の規模）、獣医学共用試験・参加型臨床実習を両輪とする獣医学教育の改善を推進するためには、わが国の獣医事関係者からのご支援が是非とも必要です。

上記のような経緯と背景から、誠に勝手ながら、獣医学教育改善並びに一般社団法人獣医系大学間共用試験実施評価機構設立の趣旨にご賛同いただける方々から下記の要領で寄付金をお願いすることとしました。我が国の獣医事・獣医療の発展・向上につながる本事業に関心をお持ちいただける多くの組織並びに個人の方々からのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、この募金は寄付金控除の対象となりますので、控除額の目安については別紙をご参照ください。末筆になりましたが、皆様のご多幸とご繁栄を心からお祈り申し上げます。

敬具

記

名 称：一般社団法人獣医系大学間共用試験実施評価機構設立事業募金

募金額：法人・団体 1 口 5 万円（2 口以上でお願いします）

個人 1 口 2 万円

募金方法：別紙

以上



獣医学共用試験

公正で円滑な実施の
ために

注：本資料は暫定バージョンです。正式バージョンは共用試験機構が発足する平成 27 年 4 月に公表を予定しています。多くの教員に獣医学共用試験実施委員会の作業を理解して頂くために公開しています。

獣医学は先行する医学・薬学と比べその規模は 1/10 以下ですが、彼らと同じことをやらなくてはなりません。

vetCAT は「**みんなが協働で、試行錯誤しながら完成させてゆくもの!**」この精神で、皆様のご協力をお願いします。

第 1 版

獣医系大学教員向け資料

http://vet_cat.umin.jp/

全国大学獣医学関係代表者協議会 獣医学共用試験委員会

社団法人： 獣医系大学間共用試験機構（平成 27 年度より）

veterinary Common Achievement Test Organization : vetCAT

目 次

委員長あいさつ

共用試験委員会について

獣医学共用試験制度に関する基本的な考え方

獣医学共用試験を導入するに至った経緯

獣医学共用試験の目的と意義

共用試験の構成（概要）

① vetCBT について

② vetOSCE について

CBT の概要

I 問題作成

獣医学共用試験 vetCBT 問題作成マニュアル ver. 2.5 (平成 25 年度版)

II 問題精選

vetCBT 実施環境要件

A. iPad を使用した vetCBT 実施

B. PC を使用した vetCBT 実施環境整備の例

iPad を使用した vetCBT 環境構築のための参考資料

CBT 試験準備費用算定のための参考資料

CBT 実施マニュアル

監督業務の概要

試験の構成

受験会場

試験監督者氏名および集合/解散時間

試験監督の集合

試験監督の休息

試験監督の実際

トラブル時の対応

受験生タイムテーブル（案）

OSCE の概要

試験成績の取り扱い

CBT 問題の機密性に関する考え方

- ① 基本的な考え方
- ② 具体的なケース (Q & A)

不正行為に対する対応

- ① 学生の皆さんへ
- ② 大学教員の皆さんへ
- ③ 学生ならびに教員の皆さんへ

トライアル試験実施における依頼文書

獣医系大学共用試験機構について

共用試験関連の各種委員会名簿

別添 1 ホームページに掲載されている Q & A

教育関係者向け

学生向け

一般の方向け

別添 2

一般社団法人 獣医系大学間共用試験実施評価機構 定款(案)

委員長あいさつ

獣医学共用試験委員会委員長 高井 伸二（北里大学）



獣医学教育改革の柱は、社会的要請に応える人材を養成するための高度専門職教育の礎となる獣医学・モデル・コア・カリキュラムの策定による教育内容・方法の改善、獣医学教育の質を保証するための評価システムの構築、獣医学教育研究体制の充実と教育環境整備、そして参加型実習の導入による臨床教育並びに公衆衛生・衛生教育の充実です。基礎・応用・臨床を網羅した講義 51 科目と実習 19 科目からなる獣医学モデル・コア・カリキュラムは平成 23 年 3 月に完成し、平成 24 年 3 月には改訂第二版にステップアップしました。

より実践的な獣医師養成のための見学型から参加型臨床実習への転換には、獣医師法第 17 条の違法性阻却要件の一つとして診療行為に参加する学生の事前評価について社会的信頼を得る仕組みの構築が必要です。全国 16 大学が共通の試験を行うことによって、大学間の格差をなくし、臨床実習生の知識・技能・態度など学習レベルを一定水準以上に保つことが可能となります。

獣医学共用試験は公平性・透明性を確保し、社会的信頼性が獲得できるような学生の質保証の評価システムとして、獣医学 16 大学の全教員にご参画頂き、築き上げながら主体的に実施して頂く試験です。

皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

全国協議会において審議・決定して頂きたい事項のリスト

1. 機構の立ち上げに関する件

1) 定款の承認

2) 設立時社員は 4 大学 (16 大学全てが 1 冊の定款に記名押印をすることは、1 月の設立を考えると、時間的に難しいので、4 校とした)

3) 設立後に、残り 12 大学に加わって頂く (時間的に余裕有り)。

4) 機構の事務所の開設 (緬羊会館の 1 室を賃貸契約する)

5) 予算案の承認

① 平成 26 年度 (寄付金)

② 27 年度 (寄付金+大学会費)

③ 28 年以降 (寄付金+大学会費+受験料) 杉浦先生から説明 (エクセルファイル)

6) 「役員の承認」

2. 問題品質管理部会の立ち上げと委員の選出の承認

部会長: 遠藤先生 (基礎系委員)

病態系委員 森田先生 (日獣大)

応用系委員 水谷先生 (農工大)

臨床系委員 米澤先生 (東大)

3. 平成 26 年度 vetCBT トライアルの実施について

1) 実施時期に関するアンケート調査を実施すること

2) 各大学の CBT 担当者は、自校のトライアルが実施される日程の前と後の他校トライアルに参加して頂くこと (サーバーパソコンの送料および出張旅費などの各大学負担のお願い)

3) 各大学で準備すべきトライアルの為の備品 (経費予定) および受験体制整備文書の準備について・・・9 月 12 日に詳細説明あり

4. 平成 26 年度 vetOSCE トライアルの実施について

1) 各大学で準備すべき vetOSCE トライアルの什器・消耗品・備品について (経費予定)

2) 実施時期に関するアンケート調査を実施すること

3) OSCE の実施日程「vetOSCE については 3 日間以内で実施する」あるいは「vetOSCE については 2 日間以内で実施する」の審議

5. 平成 27 年度トライアル事業費の各大学の分担金について (再確認)

大学分担金 = 固定額 30 万円 + 学生定員 x 0.5 万円 (45~90 万円)

6. その他

以上

獣医学共用試験機構→獣医学教育支援機構

- 理事会・事務局
- 全国協議会の事務組織：各委員会名簿や委員会の審議議事録などの保存、広報、財務
- 獣医学共用試験センター（共用試験委員会の発展的解消）
 - 1) C B T 問題管理委員会
 - 2) C B T 実施委員会
 - 3) O S C E 実施委員会
 - 4) 試験統括委員会（トライアル委員会の発展的解消）
 - 5) システム検討委員会（トライアル委員会の発展的解消）
- 分野別第三者評価小委員会（分野別第三者評価に関して大学基準協会とすみわけが出来た場合；例えばサイトビジットなど）

以下の委員会に関しては全国協議会の委員会として設置

- 参加型臨床実習推進委員会
- 獣医学教育検討委員会
 - 1) 獣医学モデルコアカリキュラムの検討
 - 2) 教科担当教員会議
 - 3) 獣医学教育に関する調査・研究・評価
- 広報委員会
- 財務委員会